

# 愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	専門演習Ⅲ		
担当者(Instructors)	中野 匡隆	配当年次(Dividend year)	4
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

## ■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

人間健康学の身体領域に関わる内容人間健康学の身体領域に関わる内容について、フィールドワーク、調査、ディスカッション、実践、データ収集、まとめる等の繰り返しすることで、学力だけでなく、実社会で必要となるジェネリックスキル、考え方、行動力を身に付ける。

## ■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	授業は、グループワークを中心とした演習形式で実施され、受講者同士での課題に関するプレゼンテーション、フィールドワーク、ディスカッション、ピアインストラクション（根拠やプロセスを教え合うこと）を積極的に取り入れる。

## ■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス、卒業論文・就職活動のスケジュールの確認、面談	授業の進め方、春季休暇中の研究の進捗状況について確認する。	<input type="checkbox"/>
第2回	研究進捗の発表（1）	研究進捗を発表する。	<input type="checkbox"/>
第3回	研究進捗の発表（2）	研究進捗を発表する。	<input type="checkbox"/>
第4回	論文のためのデータ・情報の収集と処理	論文のためのデータ・情報を収集によって、設定したテーマ（仮説）について、更なるデータ・情報の収集を実施し、データに適したデータ処理と統計処理をする	<input type="checkbox"/>
第5回	図表の作成	見やすく、わかりやすい表の作成をする。	<input type="checkbox"/>
第6回	論文のための背景の推敲	論文のためのテーマについて、『データ・情報の収集』⇄『考察』のサイクルを繰り返し、背景を深めていく。	<input type="checkbox"/>
第7回	論文の書き方	論文の書き方とタイトルページ、目次の作り方、脚注の入れ方などWordでの小論文の作成に必要な機能を学ぶ。	<input type="checkbox"/>
第8回	プレゼンテーションの方法（口頭発表、ポスター発表）	聞きやすく、見やすく、わかりやすいプレゼン資料の作成とプレゼンの方法を学ぶ。	<input type="checkbox"/>
第9回	フィールドワークの計画	フィールドワークの計画する。	<input type="checkbox"/>
第10回	フィールドワークの実践（1）	フィールドワークの実践する。	<input type="checkbox"/>
第11回	フィールドワークの実践（2）	前回の経験を活かしてフィールドワークの実践する。	<input type="checkbox"/>
第12回	フィールドワークの振り返り	フィールドワークの振り返りをする。	<input type="checkbox"/>
第13回	ゼミ内進捗状況発表会（1）	ゼミ内で進捗状況を発表し、ディスカッションをする。	<input type="checkbox"/>
第14回	ゼミ内進捗状況発表会（2）	ゼミ内で進捗状況を発表し、ディスカッションをする。	<input type="checkbox"/>
第15回	ゼミ内進捗状況発表会（3）	ゼミ内で進捗状況を発表し、ディスカッションをする。	<input type="checkbox"/>

## ■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前事後：卒業研究に取り組む（4時間程度）。

## ■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

課題レポートは添削・採点をしてから返却する。全体として共通のポイントに関しては全体で共有し、個別のポイントに関しては学生個々に個別指導をする

## ■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2019人間健康DP2	1. 人間健康学の身体領域に関わる内容を理解し、問題意識を持つことができる。 2. フィールドワークにおいて問題発見、試行錯誤、創意工夫、課題解決する努力ができる。

■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			100%	
授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)				
レポート(卒業論文の進捗) 100%				

■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	必要に応じて紹介する。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	必要に応じて紹介する。	
2		
3		
4		
5		